

# 関市文化振興計画

—未来への羅針盤—

(改訂版)

令和4年3月

関市



# 目次

<b>第1章 前提事項</b> .....	1
1 計画改訂の趣旨と背景 .....	1
2 計画の位置づけ .....	1
3 計画の期間 .....	2
4 中間改訂版の考え方 .....	2
5 令和8(2026)年度目標に対する中間評価 .....	3
<b>第2章 改訂内容</b> .....	4
基本方針1 文化活動に参加できる機会の充実 .....	4
基本方針2 文化への理解を深め、人が生きる身近な文化施設の充実・創造.....	6
基本方針3 歴史・伝統ある郷土文化の保存・継承・活用・連携の推進 .....	8
基本方針4 文化を通して心豊かになる環境づくり .....	10
基本方針5 人と文化をつなぐ人材、団体づくり .....	12



# 第1章 前提事項

## 1 計画改訂の趣旨と背景

関市（以下、「本市」という。）では、平成29（2017）年3月に計画期間を10年とした「関市文化振興計画—未来への羅針盤—」（以下、「本計画」という。）を策定し、芸術文化を契機として、市民の豊かな心と志を育むとともに、郷土への誇りを高めることを目的に、芸術文化振興に関する施策を進めてきました。

その間に国では、平成29（2017）年6月に「文化芸術振興基本法の一部を改正する法律」が施行され、それまでの「文化芸術振興基本法」が「文化芸術基本法」となりました。この改正により、平成30（2018）年3月には「文化芸術推進基本計画—文化芸術の「多様な価値」を活かして、未来をつくる—（第1期）」（以下、「文化芸術推進基本計画」という。）が策定されました。これまでの芸術文化振興をさらに充実しつつ、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等の関連分野と有機的に連携し、芸術文化により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造につなげていくことが謳われています。

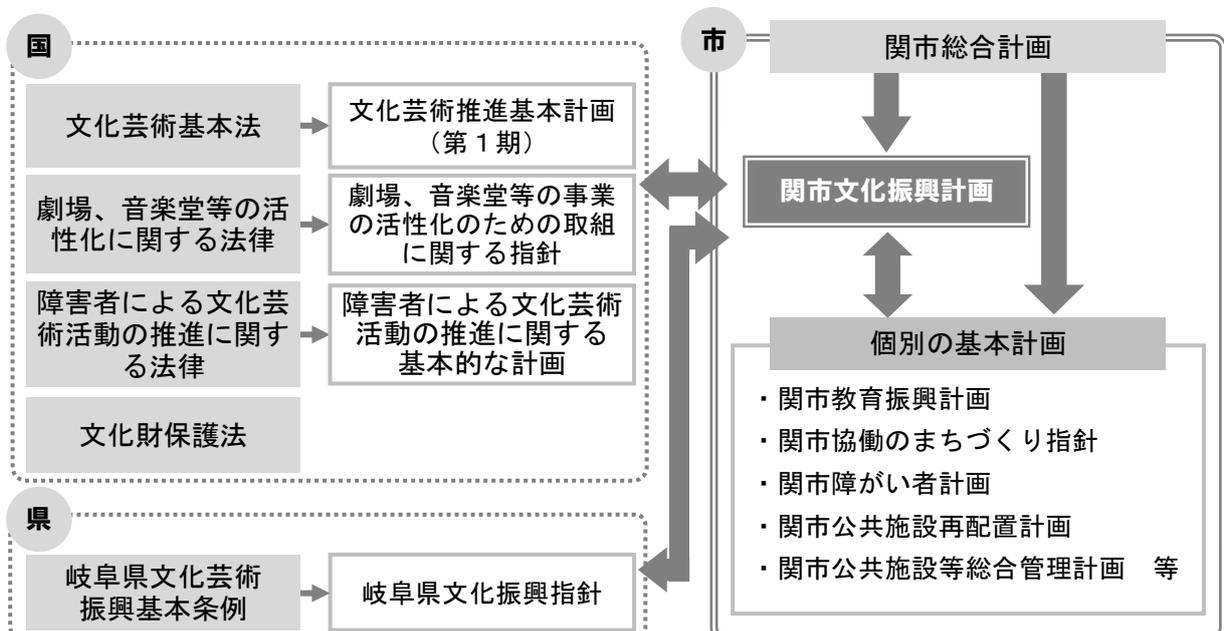
このたび、今後の社会情勢の変化や多様な市民のニーズを踏まえるため、本計画の中間評価及び改訂を行い、さらなる芸術文化施策の推進に取り組みます。

## 2 計画の位置づけ

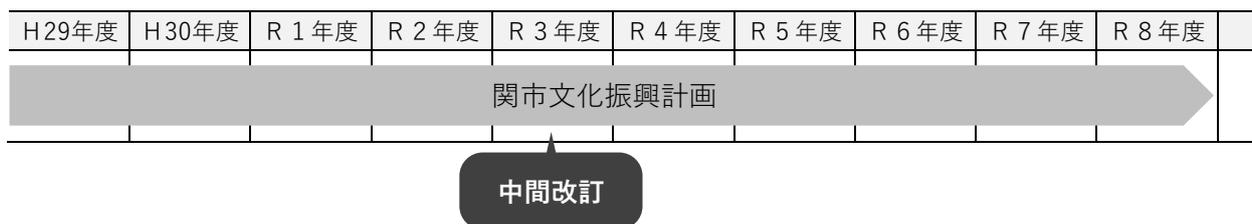
本計画は、「関市総合計画」の芸術文化の振興に関する分野別計画として、文化政策の具体的な取組を明らかにする、本市の芸術文化の振興の基本となる計画です。

改訂にあたっては、「文化芸術基本法」をはじめ、平成29（2017）年度以降に施行・策定された国の関連する法律・方針等とも整合を図ります。

■関連する法律等の体系図



### 3 計画の期間



### 4 中間改訂版の考え方

- ・基本理念や基本方針は継続して位置づけます。
- ・本冊子には、施策の展開にあたって、社会潮流や市民ニーズ、活動者の意向を踏まえて改訂が必要なもののみを抜粋し掲載しています。
- ・平成 27（2015）年 9 月に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点を取り入れ、各施策を推進します。本計画と関係が強いものとしては「目標 4 質の高い教育をみんなに」が該当し、すべての人に公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を設けることが求められています。
- ・令和 2（2020）年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により、芸術文化の様々な分野に影響が生じています。収束の見通しが不透明であることから、今後も各施策の推進にあたっては、感染防止等にかかる取組を横断的に行います。

#### ■本計画の方向性概要

項目	内容
基本理念 [継続]	伝統や芸術に触れる つなぐ 支える 心豊かな文化のまち
視点 [継続]	・触れる 知る・体験する・創造する（つくる） ・つなぐ 連携・人・夢・地域・情報発信・産業・観光・福祉 ・支える 施設環境・協働・保護・維持・支援・コーディネート
基本方針 [基本的に継続、追加分を本冊子に掲載]	1 文化活動に参加できる機会の充実 2 文化への理解を深め、人が生きる身近な文化施設の充実・創造 3 歴史・伝統ある郷土文化の保存・継承・活用・連携の推進 4 文化を通して心豊かになる環境づくり 5 人と文化をつなぐ人材、団体づくり
重点プロジェクト [継続]	① 人材バンク（アーティスト・コーディネーター）の設置・運営 ② 施設の特性を活かした芸術文化の拠点づくり ③ アウトリーチ・ワークショップの充実

## 5 令和 8（2026）年度目標に対する中間評価

本計画には、全体と基本方針 1～5 に進捗状況を測るための目標数値を位置づけています。

令和 8（2026）年度の目標に対する令和 3（2021）年度の現状値は、以下のとおりです。A 判定は全体の 10.0%（1 項目）、B 判定は 40.0%（4 項目）、C 判定は 50.0%（5 項目）となっています。

基本方針 1、5 については、C 判定となっていますが、これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるものと考えられます。基本方針 3 については、平成 29（2017）年度の実績値から 6.1 ポイントと大きく増加しており、目標を達成しています。計画全体、基本方針 2 については、B 判定となっていますが、実績値より改善しており、市民の芸術文化施策への評価が高まっていると言えます。基本方針 4 では、「芸術文化体験を行ったことがない子どもの割合」が実績値より増加しており、改善が必要です。

コロナ禍で事業の実施等が困難な状況にありましたが、半分の目標で改善がみられました。

### 【判定基準】

- A…すでに令和 8（2026）年度の目標値を達成している
- B…平成 29（2017）年度実績値より改善している
- C…平成 29（2017）年度実績値より改善していない

#### ■計画全体の目標設定

項目	H29 年度	R 3 年度	R 8 年度目標	達成状況
関市を芸術文化が盛んなまちだと思ふ市民の割合	27.7%	31.7%	35%	B
関市の芸術文化的環境の総合的な満足度	27.7%	33.3%	35%	B

#### ■基本方針 1 の目標設定

項目	H29 年度	R 3 年度	R 8 年度目標	達成状況
芸術文化を鑑賞していない市民の割合	26.2%	52.1%	20%	C
鑑賞を除いた芸術文化に関わる活動をしていない市民の割合	69.3%	71.9%	60%	C

#### ■基本方針 2 の目標設定

項目	H29 年度	R 3 年度	R 8 年度目標	達成状況
文化施設（ホール・劇場、美術館・博物館等）の充実への満足度	20.6%	23.4%	30%	B

#### ■基本方針 3 の目標設定

項目	H29 年度	R 3 年度	R 8 年度目標	達成状況
関市の歴史や指定文化財の保存、活用がされていると思ふ市民の割合	39.1%	45.2%	45%	A

#### ■基本方針 4 の目標設定

項目	H29 年度	R 3 年度	R 8 年度目標	達成状況
子どもが芸術文化に親しむ機会の充実への満足度	10.1%	12.8%	20%	B
芸術文化体験を行ったことがない子どもの割合	8.6%	11.5%	5%	C

#### ■基本方針 5 の目標設定

項目	H29 年度	R 3 年度	R 8 年度目標	達成状況
芸術文化に関わる人材の育成への満足度	7.6%	6.9%	15%	C
芸術文化の振興に関わるボランティアや寄付をしている市民の割合	9.7%	3.4%	15%	C

## 第2章 改訂内容

### 基本方針1 文化活動に参加できる機会の充実

#### 【国等の動き・社会潮流】

- ・平成30(2018)年に策定された「文化芸術推進基本計画」では、今後の文化芸術施策の目指すべき姿として、すべての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されることを定めています。
- ・インターネット等の情報通信技術の急速な発展と普及により、芸術文化情報へのアクセスが容易になり、多様な芸術文化活動の展開が可能となっています。5G※の普及等通信環境の変化も視野に入れ、今後の対応を検討する必要があります。

#### 【現状・課題】

##### アンケート調査

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により芸術文化を鑑賞した人の割合が減少していますが、市民の満足度は高い状態です。
- ・行事の開催情報の入手先は、「広報せき」や「チラシ・ポスター」が高くなっています。一方で「ツイッター」や「フェイスブック」は低く、SNS等を通じての発信にさらに力を入れていく必要があります。
- ・鑑賞・参加してみたい芸術文化活動として「一流の芸術家の舞台や演奏、作品の鑑賞」を希望する声が高まっています。

#### ■芸術文化を鑑賞していない市民の割合



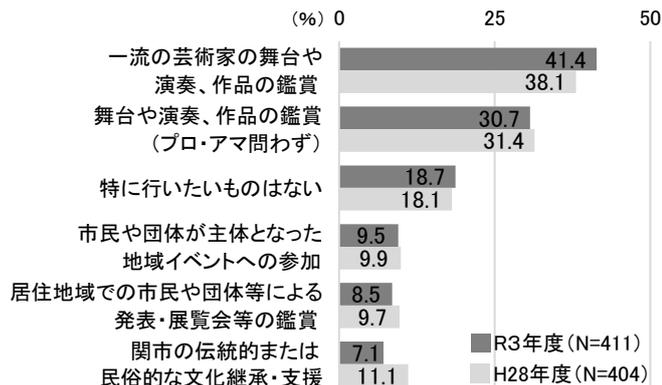
#### ■関市の芸術文化的環境の総合的な満足度



#### ■行事開催情報の入手先

	項目	(N=411)
1	広報せき	78.3%
2	チラシ・ポスター	36.0%
3	関市あんしんメール	29.2%
4	友人知人から	22.6%
5	関市ホームページ	10.9%
6	ツイッター	2.2%
7	その他	2.2%
8	フェイスブック	1.7%

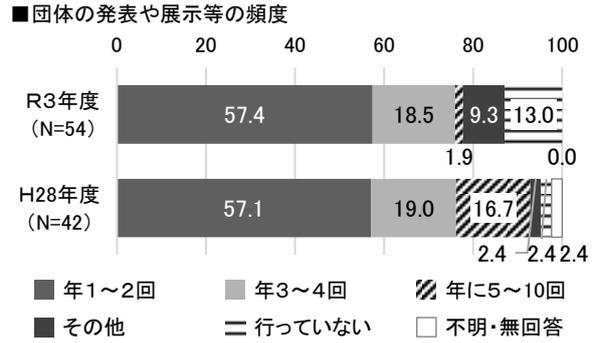
#### ■今後鑑賞・参加してみたい芸術文化活動



※5G:「超高速」だけでなく「多数同時接続」や「超低遅延」といった新たな特徴を持つ「4G」に続く次世代の移動通信システム(第5世代移動通信システム)のこと。

団体アンケート・ヒアリング

・団体の発表や展示等の頻度は、年に1回から2回が高くなっています。経年で比較すると、年に5回から10回行っている団体の割合が特に減っています。



■関市の文化振興のためのアイデア(団体アンケート原文から抜粋)

- ・幅広い年代の関市民の方達が作品展・美術展等に親しむ機会が多くなるよう、情報の提供をお願いしたい。(作品を鑑賞することで興味をもってもらいたい)
- ・旧各市町村の地域芸能発表会の日を設けたらどうか。
- ・子どもミュージカルや児童合唱団等の子ども達が活動できる場があるといい。
- ・関市美術展にて、あるレベルを定めて作品を落とさないと、美術展の意味がないと思う。落選や入選がはっきりすると、作品を出す側は落選すれば次回はもっといい作品にしようと思えることができる。

【施策の展開】(「取組」には平成29(2017)年度策定の計画に位置づけている施策番号をあわせて掲載しています。)

取組	内容	担当課
[施策1] 鑑賞・体験機会の創出における新技術の活用	○文化情報のQRコード化による情報提供やインターネットを通じたオンライン鑑賞、ワークショップなどを通じて、劇場に来ることができない人や幅広い世代に多彩な芸術文化を提供できる仕組みづくりを進めます。	文化課
[施策1] サークル参観日の開催	○文化・スポーツ・ボランティアなど様々なサークルやグループの普段のままの活動を発表、体験できる双方向の取組です。ホームページで公開しているグループ・サークルの登録情報や、「学習・スポーツ・ボランティアナビ」の活用を促進します。	生涯学習課
[施策2] 美術展の内容の充実	○「関市美術展」を令和3(2021)年度より審査制にし、賞金を出す方法に変更していることから、今後も市民の声を踏まえて内容の充実を図ります。	文化課
[施策2] 鑑賞、体験、発表機会等における感染症対策の実施	○文化等の鑑賞、体験、発表の場において感染症対策等の徹底を進めます。	文化課
[施策4] インターネットによる情報収集・発信の充実	○SNS等による効果的な情報発信のさらなる充実を図ります。	文化課

## 基本方針 2 文化への理解を深め、人が活きる 身近な文化施設の充実・創造

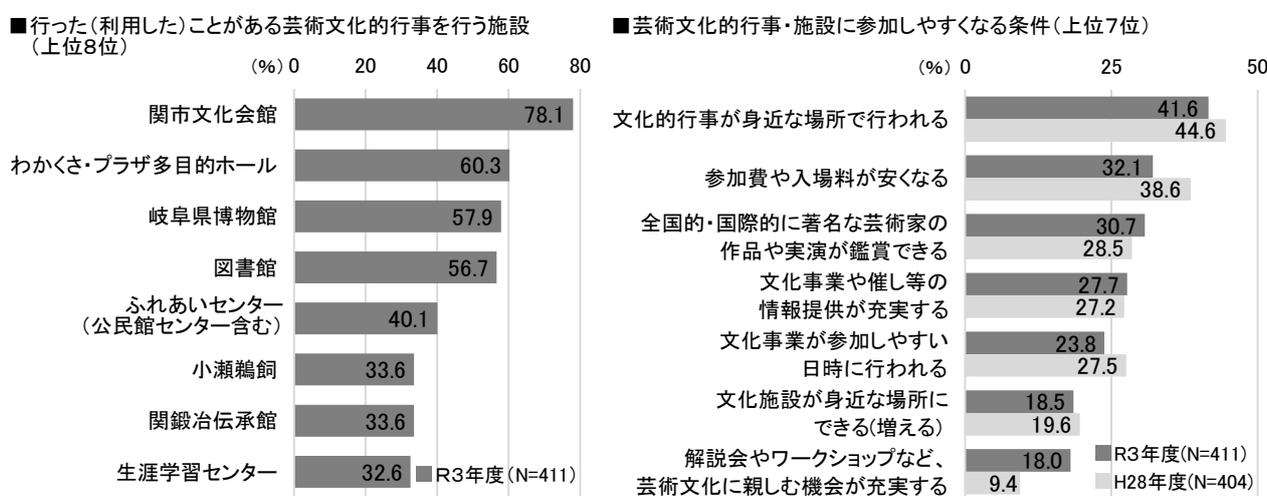
### 【国等の動き・社会潮流】

- ・本市では、平成 28 (2016) 年に「関市公共施設等総合管理計画」を策定し、施設の重複や老朽化に伴う施設更新費用の増大への対応を進めています。芸術文化施設においても、合併により重複する施設が複数あり、利用状況等を勘案しながら統廃合を進め、複合化も検討していく必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、公演等の延期・中止や縮小など、芸術文化においても影響を受けました。各種文化施設においても、感染症対策や「新しい生活様式」に対応しながら事業を実施していく必要があります。

### 【現状・課題】

#### アンケート調査

- ・行った(利用した)ことがある芸術文化的行事を行う施設は、「関市文化会館」「わかくさ・プラザ多目的ホール」「岐阜県博物館」が高くなっています。
- ・芸術文化に関する行事・施設に参加しやすくなる条件として、「文化的行事が身近な場所で行われる」が最も高くなっています。経年で比較すると、「解説会やワークショップなど、芸術文化に親しむ機会が充実する」が特に高くなっており、ニーズの変化がみられます。



#### ■ 施設に関する市民の意見(アンケート原文から抜粋)

- ・関市の芸術文化をより発展させるためには、中学生までの入館無料化や、無料で体験できるイベントを増やすといい。 ※市内の公立文化施設は中学生以下もしくは高校生以下が入場無料です。
- ・趣向を凝らした体感的な施設があるといい。
- ・市民の皆さんへの団体活動の周知と募集を兼ねて、わかくさ・プラザや文化会館でのワークショップの機会をもっと増やしてほしい。
- ・市内の公園、円空館前など古くなっている所の整備、作ったものの人が来ない等への対策が必要。

## 団体アンケート・ヒアリング

・団体活動の成果の発表場所は、「関市文化会館」「地区のふれあいセンター」「民間の施設」が高くなっています。

### ■団体活動の成果の発表場所

	項目	(N=54)
1	関市文化会館	59.3%
2	地区のふれあいセンター	22.2%
3	民間の施設	20.4%
4	わかくさ・プラザ	18.5%
5	地区の生涯学習センター	16.7%
6	地区の公民センター	14.8%
6	他市町の公共施設	14.8%
7	発表の場が特にならない	1.9%
8	個人宅(先生の自宅など)	0.0%

#### ▶民間の施設の具体的な意見

まちかどギャラリー(3件)、お寺(2件)、関文学(2件)、介護施設、カフェギャラリー、神社、関キリスト教会、本町商店(各1件)

#### ▶他市町の公共施設の具体的な意見

岐阜シティータワー43、愛知芸術文化センター、金山飛山会館、岐阜市民会館、郡上市総合文化センター、サラマンカホール、タウンホールとみか(各1件)

### ■施設に関する団体の意見(団体アンケート原文から抜粋)

- ・ 駅ピアノみたいなのが公共施設にあつたらいい。
- ・ 文化会館がもっと日常的に訪れる場所になるよう、小さなイベント、マルシェ、憩いの場づくりを行ってはいかがでしょうか。
- ・ 文化面に関する施設がバラバラ。博物館や歴史資料館等の施設がままとると、市民県民の足がむくと思う。

## 【施策の展開】

取組	内容	担当課
[施策1] 施設における感染症対策の実施	○各施設において感染症対策のための必要な物品の確保に努めます。	文化課
	○市民が継続的に芸術文化を享受できるよう、平時より意識を高め、オンラインの活用など状況に応じた新たな手法に取り組みます。	文化課
[施策1] 新技術の活用による利便性の向上	○施設の利用やイベントの参加について、スマートフォンやパソコンから申込みができるサービスを導入するなど、新技術の活用により文化施設の利便性を高めます。	文化課

## 基本方針 3 歴史・伝統ある郷土文化の 保存・継承・活用・連携の推進

### 【国等の動き・社会潮流】

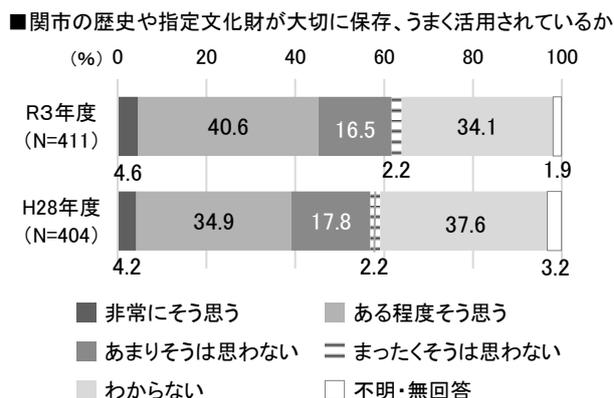
- ・「文化財保護法」では、過疎化・少子高齢化などを背景に文化財の滅失や散逸等の防止が喫緊の課題となっており、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化が求められています。令和3（2021）年の改正では、無形文化財及び無形民俗文化財の登録制度や、地方公共団体による文化財の登録制度等が新設されました。
- ・令和3（2021）年に策定された「岐阜県文化財保存活用大綱」では、施策として市町村による「文化財保存活用地域計画」の作成促進等の方向性が示されています。
- ・「文部科学省におけるデジタル化推進プラン」において、文化資源のデータベース化、アーカイブ※の促進等における次世代への継承や、伝統芸能、伝統的な催事等の映像配信等による幅広い層への周知等が示されています。文化資源の保護・活用にデジタル・トランスフォーメーション(DX)※を活用していくことが求められます。

### 【現状・課題】

#### アンケート調査

- ・関市の歴史や指定文化財が大切に保存、うまく活用されているかについて、『そう思う』が45.2%となっています。経年で比較すると、『そう思う』が6.1ポイント高くなっています。一方で、「わからない」が34.1%と依然として高く、引き続き市民の関心を高めるための取組が必要です。

『そう思う』:「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」を合わせた結果。

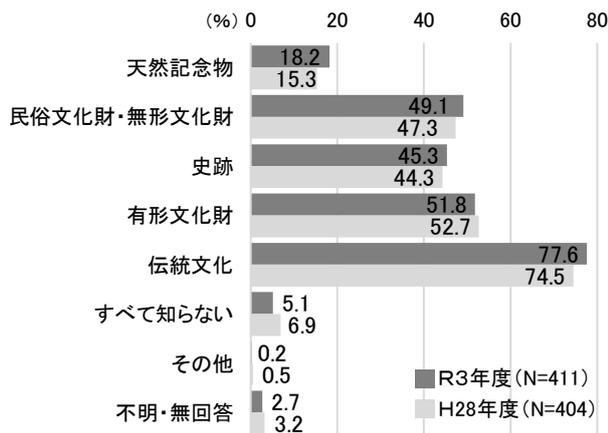


- ・知っている関市指定文化財や伝統文化を経年で比較すると、「天然記念物」「民俗文化財・無形文化財」「史跡」「伝統文化」で伸びており、周知が進んでいることがわかります。

※アーカイブ：重要な記録や文書を保管すること、または保管場所。

※デジタル・トランスフォーメーション（DX）：進化したデジタル技術を社会に浸透させることで、人々の生活をより良いものへと変革すること。

■知っている関市指定文化財や伝統文化



※関市指定文化財は以下を指します。

- ・天然記念物：永昌寺のイチョウ・正武寺のサザンカなど
- ・民俗文化財・無形文化財：獅子舞・小瀬の鶴飼用具・春日神社輿・倉知祭など
- ・史跡：弁慶庵・小瀬方墳・塚原遺跡など
- ・有形文化財：絵画工芸品等（刀剣類[銘：兼友・家久・照門・国常・兼門・兼吉]など）・彫刻（円空作仏像など）・建造物（仁王門・能舞台など）・考古資料（弥勒寺遺跡群出土木簡など）
- ・伝統文化：郷土芸能・小瀬鶴飼・日本刀鍛錬・各地域の祭りなど

団体アンケート

■関市の郷土文化等に関する団体の意見(団体アンケート原文から抜粋)

- ・古典芸能の伝承を支援する。古典芸能のふるさとする。団体の発掘・支援。
- ・本町BASEやせきてらすをさらに文化交流の場として活用できると良いと思う。せきてらすで刃物を活用しているのはとても良い。主なる物と新しく産み出せる文化への視野も広がったら素敵なまちになると思う。
- ・市内での古墳、民俗等歴史的価値の常設展示場が必要。他の市町にはあるが、関市にはない。弥勒寺を全国にアピールする必要がある。関市民でも遺産としての価値を実感している人が少ない。

【施策の展開】

取組	内容	担当課
[施策1] 文化財保存活用地域計画の策定	○文化財保存活用地域計画の策定を検討します。	文化財保護センター
[施策1] 文化資源の維持・継承における新技術活用	○文化資源のデータベースを構築し、インターネット等を通じて公開するなど、文化資源を活用しやすい仕組みを検討・実施します。	文化財保護センター 生涯学習課 学校教育課
[施策2] 観光施設等との連携	○令和3(2021)年にオープンした「せきてらす」、令和4(2022)年にオープンした「古民家あいせき」において、本市の文化や歴史等について親しむとともに、情報発信できるよう取り組みます。	観光課 都市計画課 文化課

## 基本方針4 文化を通して心豊かになる環境づくり

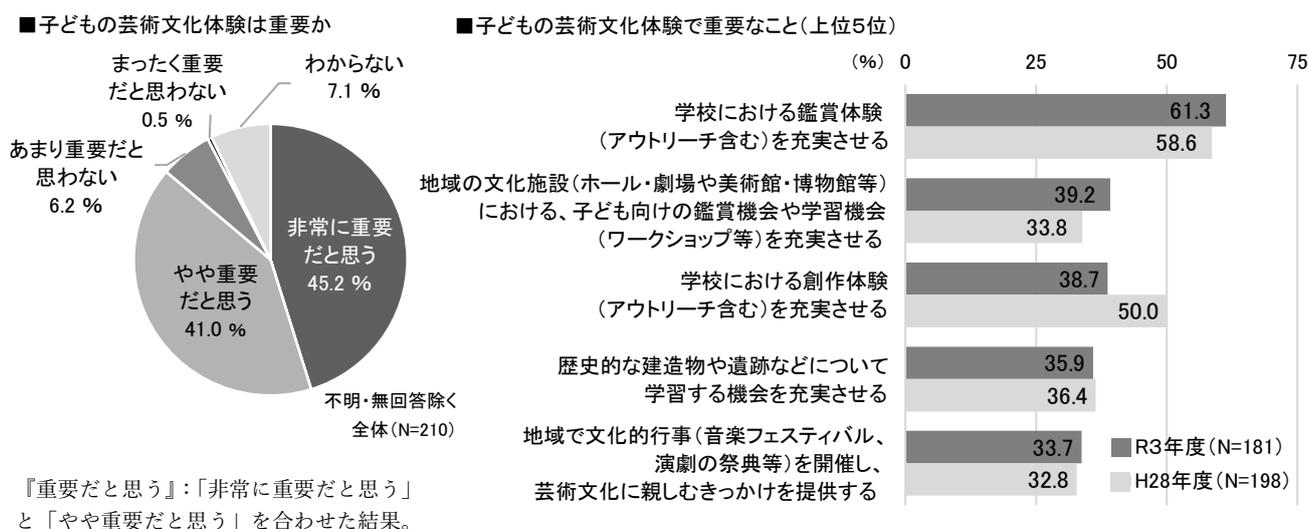
### 【国等の動き・社会潮流】

- ・「持続可能な開発目標」(SDGs)では、「誰一人取り残さない」ことを基本理念として掲げており、芸術文化の分野においてもSDGsの視点を踏まえた取組が求められています。
- ・「文化芸術基本法」では、年齢、障害の有無または経済的な状況や居住する地域にかかわらず等しく文化芸術を鑑賞等できる環境の整備が求められています。
- ・平成30(2018)年に施行された「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」では、障害者による文化芸術活動に係る地域での作品等の発表、交流等を促進し、心豊かで住みよい地域社会の実現に寄与することなどが求められています。
- ・「文化芸術基本法」において、児童生徒等に対する文化芸術に関する教育の重要性が示されました。今後さらに芸術文化教育を推進していくことが求められます。
- ・「文化芸術推進基本計画」では、今後の文化芸術施策の目指すべき姿として、あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されることを定めています。
- ・令和2(2020)年度に「GIGAスクール構想※」が前倒しで実施され、小中学生に1人1台教育用端末が導入されました。芸術文化教育においても活用していく必要があります。

### 【現状・課題】

#### アンケート調査

- ・子どもの芸術文化体験が『重要だと思う』市民が約9割と高くなっています。
- ・子どもの芸術文化体験について「学校における鑑賞体験(アウトリーチ含む)を充実させる」「地域の文化施設(ホール・劇場や美術館・博物館等)における、子ども向けの鑑賞機会や学習機会(ワークショップ等)を充実させる」ことを重要とする声が高まっています。



※GIGAスクール構想:児童生徒向けの1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく公正に個別最適化された学びや創造性を育む学びに寄与するもの。

- ・芸術文化活動をしていない理由について、障がいや健康上の理由等の意見もみられました。様々な人が芸術文化活動に参加できる環境整備が必要です。

■芸術文化活動をしていない理由「その他」の内容(原文から抜粋)

- ・新型コロナウイルス
- ・障がい者のため
- ・親の介護があるため
- ・健康上の理由
- ・興味がない

団体アンケート・ヒアリング

■子どもの芸術文化体験について団体の意見(団体アンケート・ヒアリング原文から抜粋)

- ・子どもや高齢者向けの活動を助成してもらえると嬉しいです。
- ・全国子ども俳句コンクールが1年おきに関市で行われます。いつも2万句以上の俳句が集まります。この素晴らしいコンクールに関市で行っていますので、関市は俳句のまちとして、もっとアピールできればと思っています。
- ・今の若者(20~40代)は芸術に関する趣味を何も持っていない方が多いと思います。遊びから趣味にかわるよう、何か発信できると良いと思います。
- ・幼稚園・小学生・中学生・高校生に必ず1年に1度、邦楽(かぐら、踊り、詩吟、三味線等)を体験させるようにする。

【施策の展開】

取組	内容	担当課
[施策1] 子ども文化事業の推進	○ソーシャルメディア等を通じた全国へのさらなるPRや参加環境の整備を進めます。	文化課
[施策1] ICT*の活用	○Society5.0*時代を見据え、子どもの芸術文化活動の促進に向けたICTの効果的な活用を行います。	学校教育課 文化課
[施策2] 障がいのある人の芸術文化活動の推進	○「障がい者ふれあい作品展」をはじめ、障がいのある人の芸術文化活動への参加機会のさらなる充実を図ります。	福祉政策課 文化課
[施策2] 文化振興条例(仮称)の制定	○文化振興に関する基本理念を定め、市民及び市の役割を明らかにするとともに、文化振興に関する基本施策を定め、これを総合的かつ計画的に推進することにより、自由で心豊かな市民生活の実現、地域社会の発展に寄与することを目的に文化振興条例(仮称)の制定に向けて取り組めます。	文化課

\* ICT:「Information and Communication Technology(情報通信技術)」、通信技術を活用したコミュニケーションを指し、情報処理だけではなくインターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。

\* Society5.0:サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させることにより、地域、年齢、性別、言語等による格差なく、多様なニーズ、潜在的なニーズにきめ細やかに対応したモノやサービスを提供することで経済的発展と社会課題の解決を両立し、人々が快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることができる、人間中心の社会。

## 基本方針5 人と文化をつなぐ人材、団体づくり

### 【国等の動き・社会潮流】

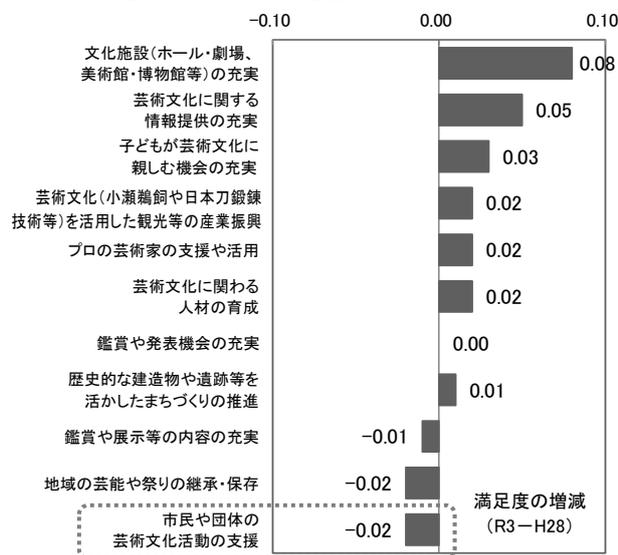
- ・人口減少・少子高齢化が一層加速する中で、地域の伝統的な文化が失われないよう、保存・継承する取組が一層求められます。
- ・子どもの貧困・格差が進み、さらに新型コロナウイルス感染症拡大の影響で子どもたち（若い世代）が文化的な楽しみを奪われ、人とのつながりを絶たれています。子どもと文化の出会いをサポートして子どもたちの自己実現の可能性を引き出していく必要があります。
- ・「人生 100 年時代」を見据えて、個人の人生や社会を豊かにするために、芸術文化活動や地域コミュニティ活動などに積極的に関わることの重要性が高まっています。高齢期における芸術文化の役割を浸透させていく必要があります。
- ・「文化芸術基本法」では、文化芸術団体は、その実情を踏まえつつ、自主的かつ主体的に、文化芸術活動の充実を図るとともに、文化芸術の継承、発展及び創造に積極的な役割を果たすことが求められています。また、団体や民間事業者等との連携・協働についても重視しています。

### 【現状・課題】

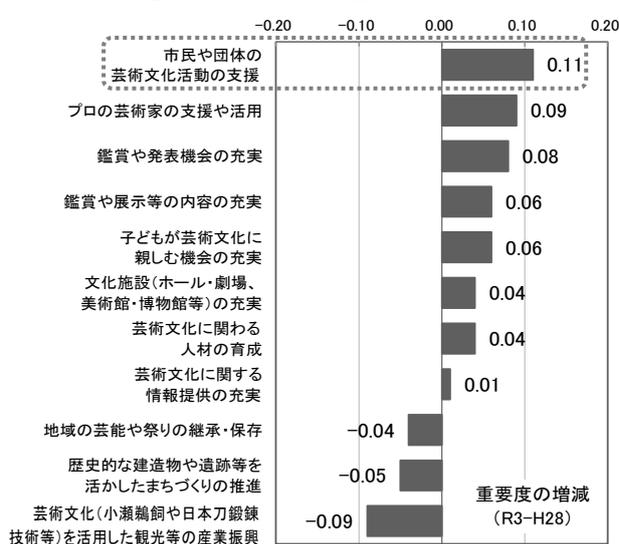
#### アンケート調査

- ・関市の文化振興の満足度と重要度の経年変化をみると、「市民や団体の芸術文化活動の支援」で満足度は下がっていますが、重要度は上がっています。

■関市の文化振興についての満足度



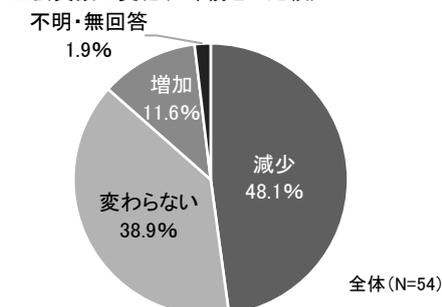
■関市の文化振興についての重要度



#### 団体アンケート・ヒアリング

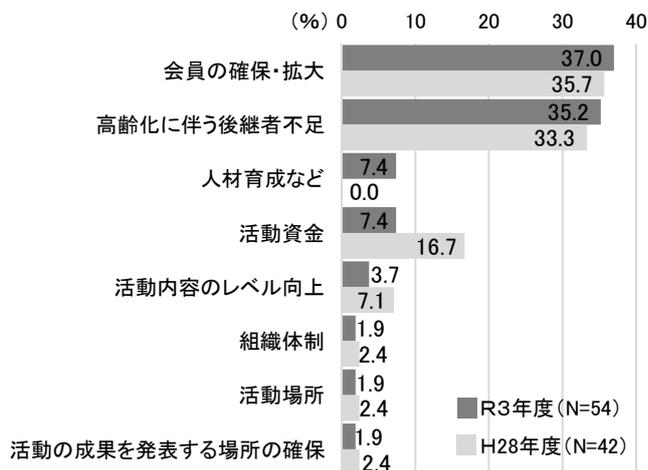
- ・5年前と比べた会員数の変化について、「減少」が48.1%と最も高くなっています。市民の団体活動への参加を促進する必要があります。

■会員数の変化(5年前との比較)

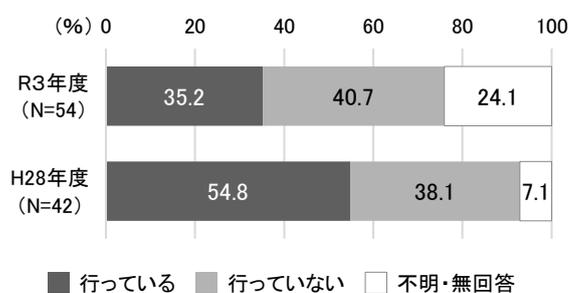


- ・今後の団体のあり方の課題について「会員の確保・拡大」が最も高く、次いで「高齢化に伴う後継者不足」となっています。経年で比較してもそれぞれ伸びており、会員数の維持・増加や若い会員の確保が求められます。
- ・後継者の育成について「行っていない」が高くなっています。経年で比較すると、「行っている」が19.6ポイント低くなっており、後継者育成のための支援が必要です。

■今後の団体のあり方の課題



■後継者の育成について



【施策の展開】

取組	内容	担当課
[施策1] 芸術文化活動者の育成	○子どもたちを主体として人と人、人と地域、地域と地域を芸術文化を通して紡ぎ、より豊かで前向きな地域社会の構築を協働して進められるコーディネーターの育成を図ります。	文化課 市民協働課
	○アートボランティア活動の情報提供を行います。	文化課 市民協働課
	○団体の活動を若い世代に発信し、活動者の育成のための支援を行います。	文化課
[施策1] 芸術文化活動団体への支援	○文化のまちづくりを担う芸術文化団体が継続して活動できるよう、各種助成制度や参加募集イベント等の情報提供を行います。	文化課
	○各団体への後継者育成に関する研修会・講演会を開催します。	文化課
[施策1] 高齢者の芸術文化活動への参加促進	○アクティブGメン♪75（健康寿命75歳以上を目指すGenki(元気)なメンバー）の活動で、イベント開催時に、子どもたちの自然・文化体験の指導サポート、見守りボランティアやその保護者の芸術文化活動への参加促進を図ります。	高齢福祉課
[施策1] 団体・企業・大学等との連携促進	○文化協会50周年事業を機に、市民が気軽に体験や鑑賞ができる機会を提供します。	文化課
	○民間団体や大学との連携や企業協賛により、事業の新たな展開・活性化を図ります。	文化課 商工課 市民協働課

---

関市文化振興計画 ー未来への羅針盤ー

(改訂版)

令和4年3月

発行 関市

編集 関市協働推進部文化課

〒501-3232 岐阜県関市桜本町2丁目30-1

TEL 0575-24-6455 FAX 0575-24-6950

<https://www.city.seki.lg.jp>

---